

令和7年度 大淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 大淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	116	57	50	4.8	9.7	学校	
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	
							487	
							489	
							503	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	120	67.7	54.3	56.8	48.7	61.2	5.0	5.5	10.6	8.4	5.4
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	119	73.2	45.1	63.8	58.1	55.6	2.2	2.9	3.3	1.1	2.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	103	68.9	65.1	67.2	64.5	70.6	6.6	2.1	4.2	1.8	2.3
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	113	137.8	126.8	173.3	120.7
10月21日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	112	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	27.44	27.37	48.05	52.41	77.57		8.26	196.59	20.48	42.22
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	22.58	23.12	44.11	44.53	51.12		9.16	174.66	12.39	47.02
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>全国と比較して、平均正答率が2.7ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうか」、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうか」を問う問題など、全国平均を14問中11問で上回った。その中でも、「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうか」を問う問題については全国平均を10ポイント以上上回った。

<数学>全国と比較して、平均正答率が1.7ポイント上回った。設問ごとと比較すると、「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうか」、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうか」などを問う問題など、全国平均を15問中11問で上回った。その中でも、「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうか」、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明できるかどうか」を問う問題など、5問で全国平均を5ポイント以上上回った。

<理科>全国と比較して、平均IRTスコアが16ポイント下回ったが、大阪府平均と同スコアであった。各設問ごとで比較すると、「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうか」、「科学的な探求を通してまとめたものを他者が発表する場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうか」を問う問題など、10問中4問で全国平均を上回った。その中でも、「ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうか」を問う問題で、全国平均を5ポイント以上上回った。

○チャレンジテスト(3年)

<国語>大阪府と比較して、平均正答率が3.5ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「行書の書き方を理解しているかどうか」、「自分の立場や考えが明確になるように、論理の展開などに注意して話を構成することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を32問中26問で上回った。その中でも、「自分の立場や考えが明確になるよう、根拠の大切さに注意して話すことができるかどうか」、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<社会>大阪府と比較して、平均正答率が3.1ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「大化の改新について理解しているかどうか」、「資料から読み取れる情報をもとに考察することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を39問中22問で上回った。その中でも、「葛飾北斎について理解しているかどうか」、「土地の標高について、地形図から読み取れる情報をもとに考察することができるかどうか」を問う問題など6問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<数学>大阪府と比較して、平均正答率が2.9ポイント上回った。設問ごとと比較すると、「変化する数量の特徴を捉え、グラフに表すことができるかどうか」、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうか」などを問う問題など、大阪府平均を33問中27問で上回った。その中でも、「表から必要な情報を求めることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<理科>大阪府と比較して、平均正答率が2.7ポイント上回った。各設問ごとで比較すると、「再結晶について理解しているかどうか」、「中緯度上空を吹く風について考え、火山灰がその風に流されることを説明することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を30問中18問で上回った。その中でも、「減数分裂について理解しているかどうか」、「弦を張る強さにより、音の波形がどのように変化するか考えることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<英語>大阪府と比較して、平均正答率が8.0ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「日常的な話題について、ポスターを読み、それについてのまとまった会話を聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を正確に把握することができるかどうか」、「話や文法事項等を理解して、正しい文を書くことができるかどうか」を問う問題など、全国平均を35問中33問で上回った。その中でも、「与えられた情報に基づいて、支持された語数で正しい英語を書くことができるかどうか」、「校外学習における学習の流れの説明を聞き、説明の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握することができるかどうか」を問う問題など13問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)

大阪市と比較して、4技能とも10ポイント以上上回ることができた。特に、「書くこと」については、約27ポイント上回った。CEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合は77.0%であり、大阪市教育振興基本計画の目標である65%以上も達成している。授業での基礎基本の定着を図りつつ、発展的な問題にも取り組んだ成果が表れている。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

2年生男子は、全国と比較して、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、体力合計点で全国平均を上回った。また、大阪市と比較して、立ち幅とびとハンドボール投げは市平均を上回った。

2年生女子は、全国と比較して、上体起こし、20mシャトルラン、立ち幅とびで全国平均を上回った。また、大阪市と比較して、ハンドボール投げで市平均を上回った。

○チャレンジテスト・チャレンジテストplus

1年

<国語>大阪府と比較して、平均正答率が5.8ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「文脈に即して漢字を正しく読んでいるかどうか」、「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を32問中27問で上回った。その中でも、「読み手を意識し、必要な情報を取捨選択して書くことができるかどうか」、「文章全体と部分との関係を考え、内容の理解に役立てることができるかどうか」を問う問題など、5問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<社会>大阪市と比較して、平均正答率が6.8ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「面積を正しく表した地図の特徴について理解しているかどうか」、「国際的な要素をもった文化の特徴について理解しているかどうか」を問う問題など、大阪市平均を30問中24問で上回った。その中でも、「時差についての理解をもとに、地図を読み取っているかどうか」、「乾燥した地域で暮らす人々の衣服と自然環境を関連づけて考察しているかどうか」を問う問題など、7問で大阪市平均を10ポイント以上上回った。

<数学>大阪府と比較して、平均正答率が10.5ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「文字式の表現を理解しているかどうか」、「具体的な事象において、比例定数の意味を理解しているかどうか」を問う問題など、大阪府平均を33問中32問で上回った。その中でも、「具体的な場面において、正の数と負の数をういた基準との差の意味を理解しているかどうか」、「問題の中にある数量に着目し、1次方程式をつくることができるかどうか」を問う問題など、14問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<理科>大阪市と比較して、平均正答率が1.5ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「植物の分類をするとき、分類の観点を指摘できるかどうか」、「示された資料から、アンフェューマを分類できるかどうか」を問う問題など、大阪市平均を23問中21問で上回った。その中でも、「全反射を主に利用しているものを指摘できるかどうか」、「振動数の単位について理解しているかどうか」を問う問題など、10問で大阪市平均を上回った。

<英語>大阪府と比較して、平均正答率が5.4ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「短いやり取りを聞いて話し手の意向を正確に理解し、会話の続きとして適切な応答を選択することができるかどうか」、「語や文法事項等を理解して、正しい文を書くことができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を39問中34問で上回った。その中でも、「日常的な話題について、まとまったやり取りを聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握することができるかどうか」、「指示された要件を踏まえ、文法や語彙の知識を活用し、英文を書くことができるかどうか」を問う問題など、3問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

調査結果から

○チャレンジテスト・チャレンジテストplus

2年

<国語>大阪府と比較して、平均正答率が8.7ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「行書の書き方を理解しているかどうか」、「文章の内容をとらえ、筆者の考えを理解することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を31問中30問で上回った。その中でも、「効果的なスピーチにするために内容を工夫することができるかどうか」、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んでいるかどうか」を問う問題など、8問で大阪府平均を上回った。

<社会>大阪府と比較して、平均正答率が0.8ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「資料から情報を正確に読み取ることができるかどうか」、「第3次産業について理解しているかどうか」を問う問題など、大阪府平均を36問中22問で上回った。その中でも、「資料から読み取れる情報をもとに考察し、説明することができるかどうか」、「貨物運送を担う輸送手段の特徴について考察することができるかどうか」を問う問題など、4問で大阪府平均を上回った。

<数学>大阪府と比較して、平均正答率が8.8ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「等式を目的に応じて変形することができるかどうか」、「照明の必要性和意味を理解しているかどうか」を問う問題など、大阪府平均を29問中28問で上回った。その中でも、「事柄が成り立つ理由を文字式を用いて説明することができるかどうか」、「筋道を立てて、証明することができるかどうか」など、12問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<理科>大阪府と比較して、平均正答率が11.4ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「血液の固形成分のはたらきについて理解しているかどうか」、「高気圧のまわりの大気動きを理解しているかどうか」を問う問題など、大阪府平均を30問中28問で上回った。その中でも、「血液や血管について理解しているかどうか」、「対照実験について理解しているかどうか」を問う問題など、19問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<英語>大阪府と比較して、平均正答率が3.8ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「与えられた情報に基づいて、指示された語数で正しい英文を書くことができるかどうか」、「会話文を読み、やり取りの場面を理解しているかどうか」を問う問題など、大阪府平均を37問中32問で上回った。そのなかでも、「語や文法事項等を理解して、正しい文を書くことができるかどうか」、「日常的话题について、表を読み、それについてのまとまったやり取りを聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を正確に把握することができるかどうか」を問う問題で、2問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

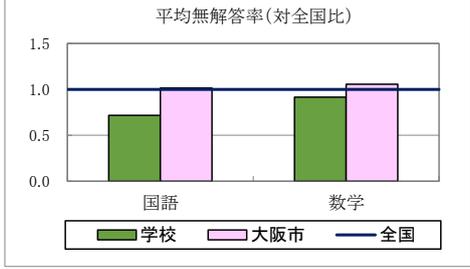
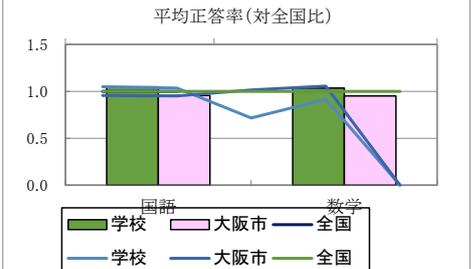
令和7年度 大淀中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	50
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	4.8	9.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

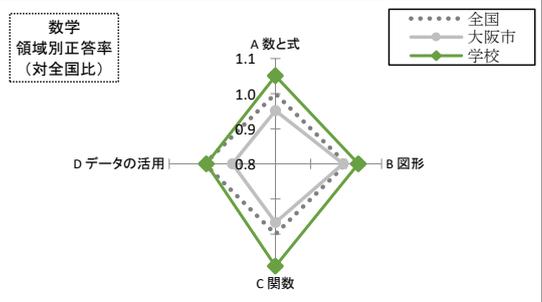
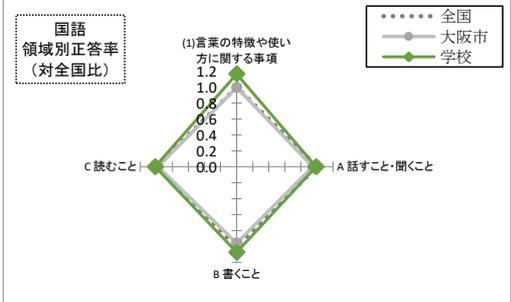
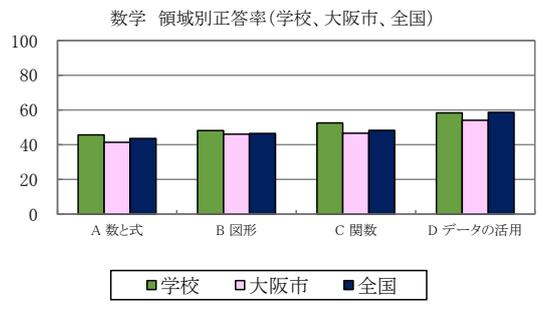
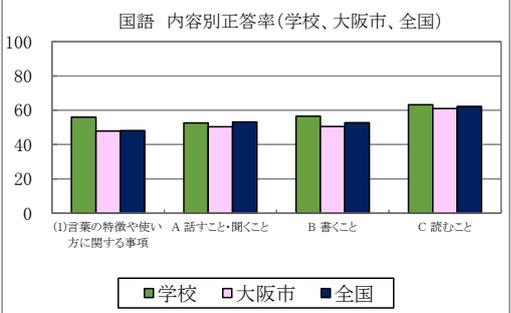


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	56.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	52.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	56.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	63.2	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	45.7	41.4	43.5
B 図形	4	48.1	46.1	46.5
C 関数	3	52.6	46.6	48.2
D データの活用	3	58.3	54.0	58.6

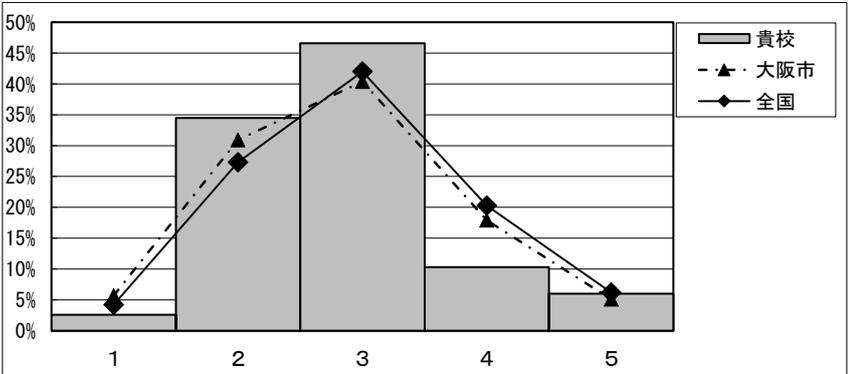
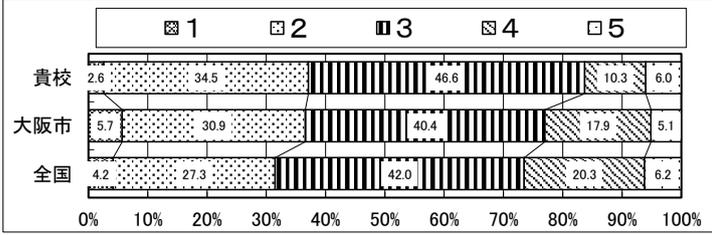


令和7年度 大淀中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	487
大阪市	489
全国	503



令和7年度 大淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

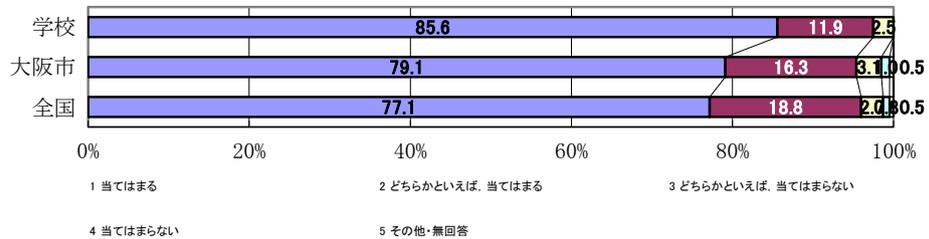
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

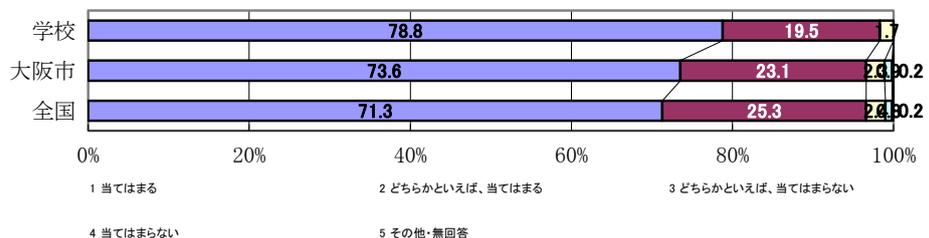
9

いじめは、どんな理由があってもいけ
ないことだと思いますか



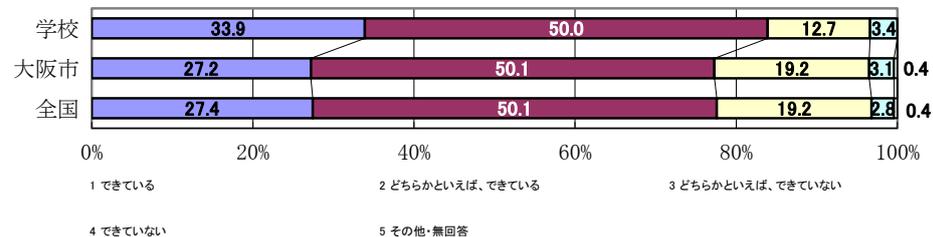
11

人の役に立つ人間になりたいと思
いますか



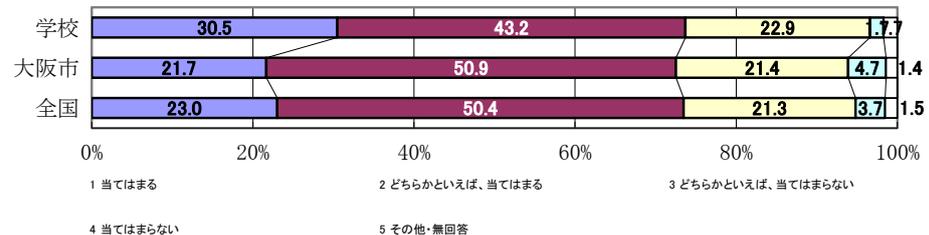
16

分からないことや詳しく知りたいこ
とがあったときに、自分で学び方を
考え、工夫することはできています
か



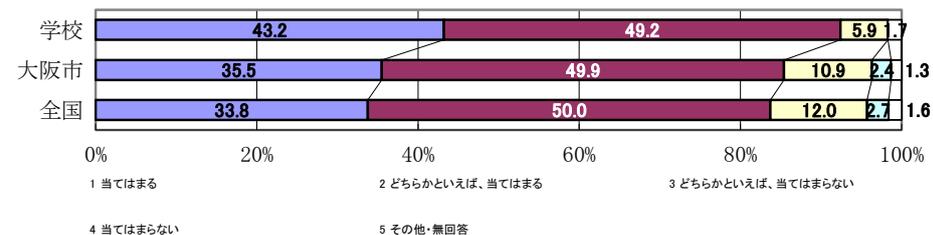
36

学習した内容について、分かった
点や、よく分からなかった点を見直
し、次の学習につなげることができ
ていますか



38

先生は、授業やテストで間違
えたところや、理解していない
ところについて、分かるまで教
えてくれていると思いますか



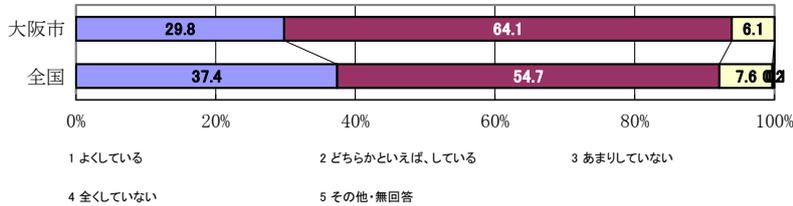
令和7年度 大淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



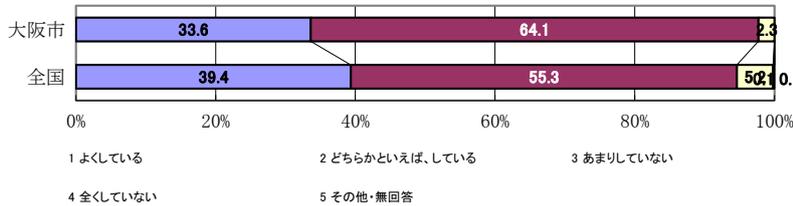
質問番号
質問事項
16
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

学校 「よくしている」を選択



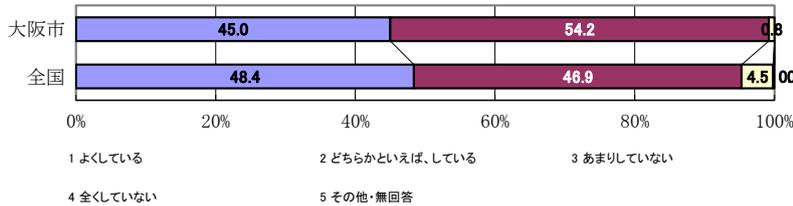
17
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「よくしている」を選択



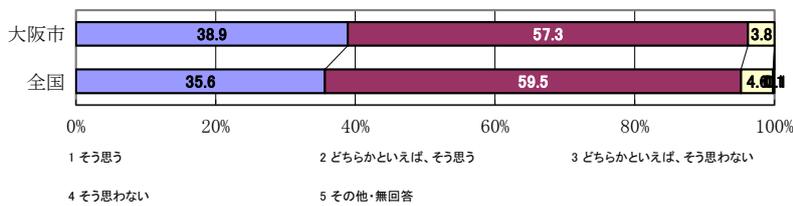
18
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



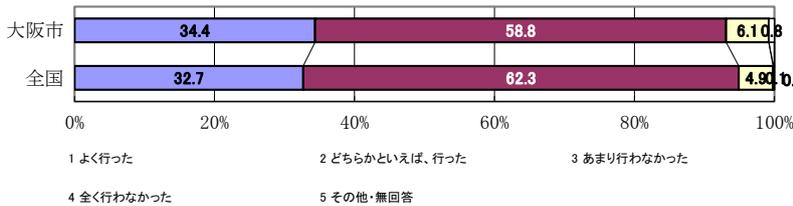
28
調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校 「そう思う」を選択



31
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



令和7年度「全国学力・学習状況調査」基礎データ(中学校・教科【大阪市・全国】)

		大阪市	全国			大阪市	全国		
国語	平均正答率	52	54.3	数学	平均正答率	46	48.3		
	平均無解答率	6.8	6.7		平均無解答率	11.2	10.6		
	学習指導要領の内容	項目数	平均正答率		平均正答率	学習指導要領の領域	項目数	平均正答率	平均正答率
	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	47.9		48.1	A 数と式	5	41.4	43.5
	(2)情報の扱い方に関する事項	0				B 図形	4	46.1	46.5
	(3)我が国の言語文化に関する事項	0				C 関数	3	46.6	48.2
	A 話すこと・聞くこと	4	50.4		53.2	D データの活用	3	54.0	58.6
	B 書くこと	5	50.6		52.8				
	C 読むこと	3	61.0		62.3				

		大阪市	全国	
理科	平均IRTスコア	489	503	
	IRTバンド分布	5	5.1	6.2
		4	17.9	20.3
		3	40.4	42.0
		2	30.9	27.3
		1	5.7	4.2